



新年のごあいさつ

仙北市長
石黒直次

市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。
皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

仙北市は誕生からすでに4年目に入っております。これまで、市政運営が順調に推移しておりますことは、市民の皆様のご理解とご協力、そして、関係各位のご尽力の賜と、深く感謝申し上げます。

昨年は、ガソリンや食料品などの物価高騰や、世界規模の金融危機など、国内外での大きな変動要因を受け、地方を取り巻く状況はますます厳しいものとなり、市の交流人口にも大きな影響を及ぼしました。

このような中、昨年秋に開催しました「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」では、角館高校を卒業され、ジブリ映画の背景画を手掛けておられる男鹿和雄氏の作品を展示したもので、県内外で反響を呼び、当初目標にしていた2万人を大きく上回り、約6万人の方々からご来場いただくことができました。

これもひとえに、ボランティアスタッフをはじめとする多くの市民の皆様及び関係団体の皆様のご支援、ご協力の結果であり、心から感謝申し上げます。

この展示会の成功をとおして、男鹿氏の地元であり、作品の原風景となったこの地域の自然のすばらしさを再確認することができたとともに、改めてこの地域を誇りに思うことができたことをうれしく思います。

さて、本市では当面する主要課題について「定住対策」「テンミリオン計画」「産業連携」の3つのプロジェクトを設定し取り組んでいるところでありますが、空き家情報バンクの充実、団塊の世代等を対象にしたスローライフモニターツアーの継続、観光振興計画の施策の実行等により、定住人口3万人の確保と交流人口1千万人を目標としております。

その目標達成のためには、行政への市民の皆様への参加・協力が欠かせません。ここに暮らす人々と訪れる人々がお互いの交流を深め、心身を癒やすことのできるまちづくりを市民との協働の中で進めて参りたいと思います。

さらに、仙北市総合計画に基づきながら、豊かな市民生活を実現するため、市民の視点に立った行財政運営に努めるとともに、市民と一体感のあるまちづくりを目指し、市民にわかりやすい市政運営を心がけ、仙北市の均衡ある発展にさらに努めて参ります。

また、全国的な医師不足などが問題となっております市立病院の課題につきましては、「市立病院等改革推進計画」を策定し、国の財政支援制度等を活かしながら、病院経営組織の一元化、役割分担等具体的な取り組みを進め、市民が安心できる医療ネットワークの構築を進めて参ります。

市民の皆様には、なお一層のご支援、ご協力をお願いするとともに、平成21年が皆様にとりまして、明るく幸せな年でありますように、ご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

